
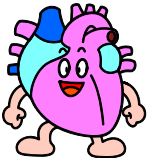
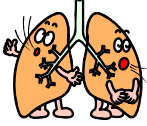

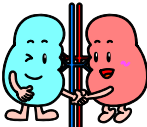



# た ま な ん 多摩南ミニ通信

(財) 東京都保健医療公社  
多摩南部地域病院  
地域医療連携室第103号  
平成19年9月発行  
連絡先 042-338-5111 (代)

今月は、検査科より体のしくみについてのお話です。私達の体の中にある臓器は生命を維持するために毎日昼も夜も休みなく一生懸命働いています。臓器はいったいどのような働きをしているのか、検査でどのようなことがわかるかについてご説明いたします。

臓器	どのような働きをしているのでしょうか？	検査の種類
 <b>脳</b>	<p>脳は人の体全体をコントロールしているとても大切なところです。人がものを考えたり、見たり聞いたり話したり覚えたりできるのはみんな脳が働いているからです。脳の障害は、脳波とCTなどでわかります。</p>	脳波 CT MRI アイソトープ検査
 <b>心臓</b>	<p>心臓の仕事は、体の隅々まで血液を送ることです。規則的なポンプのように作用し、酸素がたっぷり含まれた血液を送り出すのと同時に全身をまわって汚れた血液を受け入れています。心臓の内部は壁で仕切られ、この2種類の血液が交わらないようになっています。心筋梗塞や心臓の筋肉に障害が起こると心臓に多く含まれる酵素が血液中にたくさん出てきて、値が上昇します。</p>	心電図 心エコー図 血液検査 アイソトープ検査 心臓カテーテル検査
 <b>肺</b>	<p>肺では空気中の酸素を取り入れ二酸化炭素などの不要なものを外に出す働きをしています。肺は筋肉がないので横隔膜で動かしています。肺の障害は呼吸機能検査とX線検査などでわかります。</p>	呼吸機能検査 血液ガス X線検査
 <b>肝臓</b>	<p>肝臓は消化、吸収作業のまとめ役として栄養素の処理をおこなっています。それ以外にもアルコールを分解したり、有毒物を無毒化して排泄したり、血液を凝固させる物質を作っています。</p> <p>肝臓の仕事は数十種類にもおよび、なくてはならない臓器です。肝臓に障害が起こると肝臓に多く含まれる酵素がうまく働かず、値が上昇したり、低下したりします。また血液が固まりにくくなってしまうので、凝固の検査も必要です。</p>	超音波検査 血液検査 凝固検査
 <b>腎臓</b>	<p>腎臓はそら豆のような形をしていて体の左右一つずつあります。血液中からいらなくなった物や余分な水を尿として膀胱へ送る働きをしています。腎臓の働きが悪くなると、いらなくなった物がうまく排泄できないため血液中には尿素窒素(BUN)やクレアチニン(CRE)という物質の値が高くなります。</p>	血液検査 尿検査 超音波検査
 <b>膵臓</b>	<p>膵臓の仕事は、膵液でたんぱく質やデンプン、脂肪を分解することです。インスリンというホルモンを分泌して血糖値を調節しています。膵炎などになると膵臓から分泌される酵素が血液中にたくさん出てきて、値が上昇します。</p>	超音波検査 血液検査

※各臓器に特異的な血液検査項目があります。

※採血受付の前に検査科ミニ通信が置いてありますので、興味のある方はご覧下さい。

♪ お問い合わせ先 検査科 内線(2250) ♪

♪ ご希望の方には『多摩南ミニ通信』を面会受付でお渡ししております。♪